

2018
姫路赤十字病院誌
VOL.42



HIMEJI
RED
CROSS
HOSPITAL



姫路赤十字病院の理念と基本方針

理 念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

1 患者中心の医療

患者の人権と意思を尊重し、患者とともにチーム医療を実践します。

2 災害医療の充実

国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。

3 地域との連携

高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおして、地域完結型医療に貢献します。

4 優れた医療人の育成

教育・研修・研究を推進し、人間性豊かな医療人を育て、医療水準の向上に努めます。

5 魅力ある職場づくり

働きやすい環境、誇りある職場を創ります。

6 健全経営

健全経営を持続し、医療活動を通じて社会に貢献します。

2017年4月改訂



患者さんの権利と責務

患者さんの権利を尊重します。

- 1 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 2 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 4 自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
- 5 自己の診療情報の開示を求めることができます。
- 6 個人情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

患者さんにご家族の義務。

- 1 健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2 診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
- 3 医療者ととともに安全確認に参加し、治療に協力してください。
- 4 病院のルールに従い、他の患者さんへ迷惑にならないように努める義務があります。
- 5 医療費の支払い請求を受けた時は、速やかに対応してください。

2017年4月改訂

巻 頭 言

変わるもの変わらないもの

副院長 最 所 裕 司

先日2月1日娘が出産し、私にとって3人目の孫ができました。娘は3人の子の母親となりました。私は他にあと2人娘がおりますがまだ子供はおりません。つまり我が家では私の3人の娘に対し孫が3人ということなり、このまま経過すれば我が家の出生率は今の日本をあらわしていることとなります。

今、日本は急速に少子高齢化が進んでいます。マスコミではこのことが盛んに報道されています。今年が私が医師になって40年目の年になります。その頃、私の専門の形成外科では高齢の患者さんはほとんどいませんでした。乳幼児、若年者、中年の患者さんがほとんどで80歳を超える方はほとんどおられませんでした。80歳を超える方の全麻手術などは高齢者の全麻症例として学会報告されていたくらいでした。今では80歳を超える全麻手術など当たり前で、90歳を超える例も行われ、本当に時代が変わっていることを感じます。私が姫路赤十字病院に赴任した約30年前、「形成外科の患者さんは若い人が多いです」とスタッフに説明したことを覚えています。それがいつの間にか今や高齢者がかなりの割合を占めるようになってきました。それに伴い扱う疾患も徐々に変わってきました。以前は口唇裂、多指合指などの先天性外表異常、顔面骨骨折を伴う重症交通事故、熱傷などの外傷が多かったのですが、最近では皮膚がん、褥瘡、糖尿病や、血管障害による足の壊疽など高齢者に多い疾患が増えてきました。

患者の年齢構成、疾患の変化もそうですが、医学も急速に変わってきています。その進歩は以前とは比べものにならないくらいのスピードです。今や病気の多くが遺伝子解析で解明されてきています。遺伝性の疾患だけでなくがん、糖尿病、自己免疫性疾患等多くの疾患の遺伝子異常が発見され、それを治療に応用するゲノム医療が普通に行われる時代がすぐそこまで来ています。もちろんiPS細胞を使った再生医療もますます進むと思います。また医療機器も急速に進歩し、ロボット手術、CT、MRI画像を使い正確な位置を把握しながら行うナビゲーション手術、また新治療棟に導入したハイブリッド手術室などより安全に手術ができるようになってきました。これからはAI(Artificial Intelligence)が診断、治療と医療のあらゆる場面に、さらに広く応用される時代がやってきます。その変化の速度はさらに加速すると思われます。私たちはこの変化・進化に対し常にアンテナを張りめぐらしておかなければなりません。しかし、その変化の中で、ほとんど変わらないものがあります。それはたとえば形成外科の分野では特に口唇口蓋裂などの手術が特にそうですが、多少の手術機器の進歩はありますが、この手術そのものは切開、剥離、止血、縫合という手術の基本が全てでほかには何もありません。それだけにこの分野は術者の経験と技術が結果を左右します。外来で自分が手術をした患者さんを時には成人すぎまでfollowし自分なりに評価し次の手術に生かし、そのくり返しで手技が進歩するのです。どの分野にも変わらない基本の技術があると思います。この基本をおろそかにして進歩はありません。AI技術、機器はこれからますます進歩します。その進歩に遅れないようにすることも大事ですが、派手で便利な機器に目を奪われ基本をおろそかにすることがないよう心がけることが重要です。

それにしてもこれから、医療はどこまで進化するのでしょうか。

目 次

巻 頭 言

2018年 姫路赤十字病院誌 巻頭言…………… 副院長 最所 裕司

論 文

B型慢性肝炎に対するインターフェロンβ治療後の長期経過……………	内科	奥新 浩晃・他……………	(1)
C型慢性肝炎に対するインターフェロンβ2週間先行 アスナプレビル・ダクラタスビル6週間治療の検討……………	内科	奥新 浩晃・他……………	(6)
脂肪性肝疾患の栄養管理：脂質と糖質の摂取に関する最新の知見 ……………	内科	森井 和彦・他……………	(10)
診断に苦慮した感染性心内膜炎の一例……………	循環器内科	西 成寛・他……………	(21)
腸間膜多量出血にて小腸穿孔の診断が困難であった交通外傷の1例 ……………	外科	畑 七々子・他……………	(25)
抜去困難であったAML plus ネック破損の1例……………	整形外科	岩佐 諦・他……………	(31)
当科における妊娠中の子宮破裂症例の検討……………	産婦人科	中山 朋子・他……………	(34)
MRIを契機に発見された子宮頸部のUterine tumor resembling ovarian sex cord tumor (UTROSCT) の一例……………	産婦人科	楠元 理恵・他……………	(37)
当科理学療法士が関わるスポーツ活動支援について ……………	リハビリテーション科	岡田 祥弥・他……………	(44)
ヘモグロビン1.5g/dlの重症貧血患者の治療経過中に合併した心不全 ……………	麻酔科	山岡 正和・他……………	(48)
当院の過去3年間の卵巣腫瘍術中迅速診断の現状……………	病理診断科	和仁 洋治・他……………	(52)
右尿管腫瘍患者の右腎実質感染に対し内科的加療と泌尿器科加療にて救命した一例 ……………	臨床研修部	秋田 光輝・他……………	(56)
仙髄神経領域の帯状疱疹により排尿障害をきたしたALK陰性未分化大細胞型リンパ腫 ……………	臨床研修部	岡崎 右京・他……………	(61)
マイトマイシンCを含む化学療法後に発症した血栓性微小血管症(TMA)の2例 ……………	臨床研修部	櫻武 敬真・他……………	(65)
抗GBM腎炎に対して治療が奏功し透析を離脱できた1例 ……………	臨床研修部	水川 薫・他……………	(69)
第30回院内学術研究発表会……………			(73)
投稿規定……………			(83)
患者プライバシー保護に関する指針……………			(85)
投稿論文チェックリスト……………			(86)
筆頭演者の利益相反自己申告書……………			(87)
編集後記……………			(88)